

ひのき 小規模化

男子の「ひのき」ホームで、昨年十月から小規模グループケアが始まりました。学園で、中舎から小舎への変更は「しらかば」「さくら」ホームに続いて三ホーム目です。「家庭的養護」の実践に向け、子どもたちの支援を続けます。

新しくできたひのきホームの玄関からは「行ってきました」「ただいま」という元気な声が聞こえてきます。また、一人部屋が確保されたことで、「自分の場所」という意識が芽生え、以前より、部屋をきれいに使っています。これまでの中舎は十八人定員で、玄関も複数のホームが一緒に使っていました。一人部屋は、高校生から八人の子どもの全員が一人部屋となりました。

お風呂も新しくなり、追い炊き機能がついて、いつでも温かいお風呂に入れると、子どもたちから大好評です。ミニリビングは、ゲームをしたりトランプをし



たりと皆が集える場所となつています。小規模グループケアになり、ホームみんなで食卓を囲んだり、そろって一つのテレビ番組をみたりと、より温かさを感じる場面が増えました。これからもこの温かさを大切に、より手厚い支援をしていきます。
(ひのきホーム長・林美歩)



あおば館は現在、小規模三ホーム、中舎二ホームで運営しています。家庭的養護推進計画では、二〇二九(平成四十二)年までにすべてのホームが六人定員の小規模グループケアにして、「家庭的養護」への移行を目指しています。一ホームが十七、十八人で暮らす中舎では、ルールや制限を多く作らざるをえません。子どもが支援を求め、他の子どもの対応に追われて「待って」ということが多くあります。食事は、厨房からホームへ食缶で運びます。「家庭的養護」とは何かといえば、「当たり前

家庭的養護 H41年までに全ホーム

あおば館

の生活」を送れるように支援することではないかと思ひます。少人数になれば、子どもを待たせることが減ります。洗濯では乾燥機を使うばかりで

なく、職員と子どもが一緒に干すこともできます。そして、ホームの中で食事作りができます。まだ、家庭的養護にしていくなは、課題が多くあります。現在、定期的に食事作りをするなど家庭的な雰囲気追求しながら試行錯誤をしています。一番大切なのは、職員が業務に追われず、

生活場面に根づき、「施設職員」ではなく、「親代わり」になれるよう生活支援することだと思います。職員は、意図をもって「家庭」「親代わり」「養育」をキーワードにして、子育てをしていきたいと思ひます。
(指導係長・阿尾匡晃)

中日青葉学園 家庭的養護推進計画

【男子】ひのき、けやき H=ホーム
【女子】もみじ、しらかば 【幼児】さくら

■平成27～31年度

定員 28年度62人 29年度60人
30年度55人 31年度51人

ひのき 8人	もみじ 19人⇒14人
けやき 19人⇒13人	しらかば 8人
	さくら 8人

小規模3H(24人) 中舎2H(38人⇒27人)

■平成32～36年度

定員 45人

ひのき 8人	もみじ 13人
けやき 8人	しらかば 8人
	さくら 8人

小規模4H(32人) 中舎1H

■平成37～41年度

定員 45人

ひのき 8人	もみじ 8人
けやき 8人	しらかば 7人
	さくら 8人

▲本体小規模5ホーム

H39年～地域小規模(6人)▶

まつ(仮称)
6人

中日青葉学園 理念 「和」

人の輪を広げ、豊かな心を育て、未来に向けて子どもと共に歩み、地域福祉の向上に貢献します。

方針

- 1 家庭的なホーム生活を通じ、子どもたちの情緒の安定を図り、安全で安心できる生活を提供します。
- 2 スポーツ・文化活動を通じ、仲間との連帯感、心身の健康、豊かな心、忍耐力を育みます。
- 3 児童の権利擁護に努め、子どもたちの言葉に耳を傾け、社会的な責任と自分たちの権利、義務について共に考え、自立を支援します。
- 4 地域との交流を深め、地域の子育て支援・ボランティア支援の役割を担い、地域に開かれた参加型の施設を目指します。
- 5 外部の専門機関との連携を深め、子どもたちにとって、より良い支援を行います。
- 6 「子どもの最善の利益」を念頭に、職員の教育・研修を行い、自己研鑽に努めます。

大規模修繕工事完了 外壁や屋上もきれいに



伐採後

雑木林を伐採、植樹

伐採したのり面には植樹し、平地は整地しました

二〇〇三（平成十五）年に建て替えられた学園の建物は、十三年を過ぎ、外装や屋上に汚れによる黒ずみが目立ち、内装でも壁や建具が傷んできました。そこで、一六（平成二十八）年七月から四か月かけて、大規模修繕工事を行いました。

外装では、雨、風で黒ずんだ壁を塗り直し、屋上などの防水工事を新たにしました。

建物内では、あおば館の三階にある男子の「ひのき」ホームを小規模化し、部屋は個室になりました。隣りは、一時保護の子ども専用「あすなろ」ホームに衣替えしました。

また、あおば館とわかば館で分かれていた職員室を一体化し、昼過ぎに両館の職員が集まって打ち合わせをはじめ、連携を密にしています。

正門から表玄関に向かう坂の南側斜面の林が伸び放題になって危険な状態になっていたため伐採し、三菱東京UFJ財団から寄贈していただいた桜やモミジなど二百二十本を植樹しました。今はまだ、か細い苗木の姿ですが、やがて四季折々に花を咲かせる林に生まれ変わることでしょう。今から楽しみです。



植樹式



足場登り見学

足場に登り、危険性を実感



職員室を一体化

毎日、両館の打ち合わせを始めました



あすなろホーム

たたみ敷きを板張りにした2人部屋です

学園の取り組み

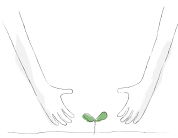
青葉学園では、子どもたちが安全で安心して生活できるよう、「心の教室」や「セカンドステップ」などのプログラムに取り組み、子どもの成長を支援しています。また、職員研修にも力を入れています。

心の教室

「自分を大切に」「相手の気持ちを大切に」

あおば館

あおば館心理部では、個別と集団の二つの心理療法を通して、子どもたちを支援しています。集団心理療法の『心の教室』では、自分を大切にしながら、相手の気持ちを大切にすることを「尊重」を体験しながら学んでもらいます。内容は一回六十分で「ウォーミングアップ」心理教育「アート」(作品制作を通して表現)「振り返り」です。



ウォーミングアップでは、「今の自分の気持ち」がどんな風なのか?」に焦点を当て、色などで表現してもらいます。そして「心の教室」



て「脳の体操」を一緒にやり、体の変化を見つけてもらいます。また、自分が心地よい感覚になれる何かを探し、嫌な気持ちの時にはその「心地よい感覚」を使って、気持ちを切り替える練習をすることもあります。こうした種まきをしておくことで、不快な気持ちが出てきた時に、それに対応する方法を一緒に見つけることができます。アートの時間は、子どもたちの制作意欲に花が咲きます。

「心の教室」の中で、子どもたちが元々持っている優しい気持ちが発揮され、自然に「ありがとう」と言い合えるグループに成長してきた時にはスタッフはとてうれしく、やりがいを感じます。(あおば館主任心理士・山内早苗)

しらかばで食事づくり 料理研究家・長田絢さんが支援

あおば館

小規模化されたしらかばホームの目標の一つは食育です。その一環として Japan Food Expert 社長の長田絢さんが、一か月に一度ボランティアとして来園してくださいます。子どもが食べたい食事や季節の行事に合った献立を考えてくださり、昨年十月はピザとカボチャのシチューでハロウィンメニュー、一月には恵方巻きの作り方に挑戦しました。材料の買い出しや調理も子どもたちと一緒に行っていただいています。子どもたちは、食に関する知識を楽しく、おいしく学んでいます。自分たちで作った料理を皆で一緒に食べると、自然と笑顔の空間になり、とても温かい時間が流れます。将来好きな人や家族ができた時に、気持ちを込めた手作り料理ができる人になれますように。(しらかばホーム・篠原江里)



セカンドステップ 感情をコントロール児童の暴力を防止

わかば館

セカンドステップは、情動のコントロールを行う力を養い、自分や相手の気持ちに気付き、フェアで安全な解決策を考えることを通して、児童の暴力防止を図るプログラムです。

わかば館では、平成十八年度から、小学校高学年男児を対象に、月に二度のペースで取組んでいます。園外でセカンドステップ研修を受けた職員四人で、参加している児童の状態に合わせ、試行錯誤を行いながらカリキュラムを進めています。回を重ねる度に、児童の反応が良くなっています。(わかば館・藤本裕也)

職員のスタッフトレーニング チームアプローチを体験

あおば館、わかば館

職員全員を対象とした研修として平成二十七年から、NPO法人アスペ・エルデの会事務局長の宮地菜穂子さん(中京大学非常勤講師)をお招きし、スタッフトレーニングを学びました。基礎的な支援技術の修得を目指した、スキルトレーニングプログラムです。二年目の本年度は、「スタッフトレーニング」Advanace」となりチームアプローチを体験しながら学ぶことが出来ました。また、「職員の

※スタッフトレーニング NPO法人アスペ・エルデの会を基盤として開発されたペアレントトレーニングプログラムです。(あおば館主任心理士・山内早苗)



ラムを、児童養護施設の子ども達および職員の実態に応じて改変し、作成されたものです。



球技大会

平成二十八年年度の県児童福祉施設長会主催の球技大会で、あおば館はソフトボールとフットサル大会で優勝。卓球大会ではAチームが準優勝しました。練習の成果が実りました。

ソフトボール

(八月二十二日、幸田町とほねグラウンド)

泥臭い努力、花開く
あおば館
一部で優勝を果たしました。チーム力が十分ではない中で勝つことができたのは、個々の持つ力を、大事な場面で発揮することができたからです。

す。泥臭い努力を重ねた道のりこそが、自分たちの超えてきた価値ある経験だと、子どもたちは感じていると思います。

(監督 宮地拓郎、コーチ 長友薫子)



ソフトボールあおば館 優勝記念撮影

ほめ合い、成長

わがば館
二部の準決勝で敗退しました。練習を通して、チームメイトを大切に、道具を丁寧に扱うことを意識しました。頑張った時にはめることで練習の雰囲気も良くなりました。部活で得たものを日常生活で役立ててくれることを期待したいと思います。

(監督 藤本裕也、コーチ 天野るな、岩見諒友)



ソフトボールわかば館ベンチから応援

ソフトボール・フットサル

あおば館優勝

卓球

(八月二十四日、日進市スポーツセンター)

A、B対戦も

あおば館

団体戦では、あおば館Aチームが準優勝、Bチームは準決勝進出、個人戦女子では石橋心愛さん(中二)が三位に輝きました。

今年、気づいたことがあれば、その都度部員たちと話し合う時間を大切に、意見をぶつけ合い、答えを見つけようと思いました。A、Bチームの対戦もあり、悔し涙を流す子もいて貴重な経験になりました。



フットサルあおば館 優勝旗を囲んで

(監督 平尾直之、コーチ 渡辺亮太)

悔しさをばねに

わがば館

団体戦は一回戦敗退でした。本年度は初心者が多く、ルールを覚えることから始めました。練習試合や大会で、勝つこと

の大変さや卓球の奥深さを学び、悔しい思いもたくさんしました。そこからレベルアップもできると考えています。

(監督 大嶋昭範、コーチ 市川航平)

フットサル

(十二月二十六日、名古屋市・テバオーシャンアリーナ)

「楽しく勝つ」を実現

あおば館

中高生の部で、昨年に続いて通算四回目の優勝を飾りました。

中高生の部は、敗者復活戦を勝ち抜いての頂上です。MVPは、西塚永幸君(高二)が選ばれました。

本年度のテーマは「楽しく勝つ」です。練習ではゲーム中心で楽しく、大会では一人ひとりの役割を持って楽しく試合に臨

めました。

(監督 竜栄貴、コーチ 宮地拓郎、渡辺亮太)

仲間を大切に

わがば館

大会では、他チームの戦い方を見て初戦の入り方をチーム全員で確認し作戦勝ちしました。

本年度の方針は「仲間を責めない。大切にする」。うまくプレーができない子がいても、どうしたらいいのか、うまくできた時には一緒に喜ぶなど、子ども同士で実践していました。

(監督 大嶋昭範、コーチ 市川航平)



卓球わかば館 作戦会議



卓球あおば館 みんなで応援



フットサルわかば館 さあ、反撃だ

目的別活動

夏休みのメインイベント「目的別活動」で、海、山、川など5つのグループに分かれて出かけ、泳いだり、バーベキューをしたりして楽しみました。



A 岐阜県郡上市川キャン

▽七月二十二日 大谷森林キャンプ村
▽七月二十三日 大滝鍾乳洞
▽参加者 小学生十四人 職員十人

川遊びでは、岩から飛び込んだり、水鉄砲で遊んだり、普段できない体験を満喫しました。夕食はカレー作りに海鮮焼を上手とは言えないはしき。皆で協力して作った料理は格別でした。二日

目は、大滝鍾乳洞に寄った後、流しそうめんを楽しみながら食べました。流れでくるそうめんを上手とは言えないはしき。皆で協力して作った料理は格別でした。二日

B 福井県若狭湾海キャンプ

▽七月二十五日 松原海岸(敦賀市)
▽七月二十六日 福井市内観光、小牧市民プール
▽参加者 中高生三十二人 職員十九人

一日目は松原海岸で海水浴を楽しみ、シュノーケリングや釣りをしました。その後常神半島の民宿へ。夕食は、新鮮な刺身が出て、皆大喜びでした。夜は花火と

肝試しをしました。二日目は大雨で、無人島行きは中止となり、福井市内観光とプールに分かれました。皆で「来年こそ無人島へ」と祈りました。

C 岐阜県郡上市幼児キャンプ

▽七月二十八、二十九日 ひるがの高原、牧歌の里
▽幼児 八人 職員五人

ひるがの高原で、冷たい水や澄んだ空気、星空の美しさを身体で感じながら夏の思い出作りをしました。コテージに宿泊し、買い物をしたり、食

事の下ごしらえの手伝いをしてもらったりしました。牧歌の里では牛や羊などの動物と触れ合い、花などの自然に親しみまし



D 長野県やぶはら高原体験キャンプ

▽八月三日 こだまの森(木祖村)
▽八月四日 ふるさと体験館きそふくしま(木曽町)
▽小学生・高校生 十二人 職員五人

こだまの森などで体験活動に挑戦しました。自然にふれて体を動かし、巨大迷路では、迷いながらゴールを目指しました。バーベキューを味わい、木材を使つてはしや小物箱作りに取り組み、そば打ち体験を楽しみました。普段できない体験ができ、子どもたちは大喜びでした。

E 愛知県東三河わかばキャンプ

▽七月二十八日 新城市学童農園山びこの丘
▽七月二十九日 豊橋市・のんほいパーク
▽わかば館・子ども十二人 職員八人

一日目は、パン屋さんでピザづくり、キャンプ場では、魚のつかみどり、野外での夕食作り、花火をして過ごすなど、これまでにしたことのない体験をたくさんしました。

二日目は、のんほいパークに出かけ、頭を使ったパズルに挑戦したり、動物に癒されたりと笑顔いっぱいでした。



4月～12月の行事														
4月	6日	北小学校入学式	7日	日進中学校入学式	16日	日進ベニヤ幼稚園入園式	16日	愛犬ジニア没	28日	分校スポーツフェスティバル	29日	つじの会		
5月	3日	GW外出あおほ館2F	4日	GW外出あおほ館3F	5日	GW外出あおほ館	31日	社会事業団理事会	8、13日	職員研修（他施設見学）	11日	青葉スポーツ大会		
6月	25日	大規模修繕工事開始	7月	21日	目的別活動A 川キャンプ	22日	目的別活動B 海キャンプ	25日	目的別活動C 幼児キャンプ	27、29日	全情短研修	28、29日	目的別活動E わかばキャンプ	
8月	1、17日	高校生交流会	3、4日	目的別活動D 体験キャンプ	22日	施設ソフト大会 あおほ館優勝	24日	施設ソフト大会	29日	合同職員室引っ越し	30日	竹の子会表彰		
9月	3日	わかば祭り	20日	不審者対応訓練	21日	日進中学校体育祭	10月	1日	ひのき小規模開始	8日	愛知韓国青年商工会焼肉会	12日	県指導監査	
10月	19日	日進中学校文化祭	22日	スターズセミナー	29日	青葉まつり	11月	20日	音楽の集い	30日	大規模修繕完了	12月	7日	
12月	7日	オアシス・フットサル教室	14日	植樹祭	18日	中日森友隊下草刈り	19日	バンビ・クリスマスコンサート	21日	社会事業団理事会評議員会	22日	クリスマス会	23日	スケート教室
	26日	施設フットサル大会 あおほ館優勝												

青葉祭り

地域の皆さんと交流を目指す「青葉まつり」が十月二十九日に、開かれました。今年で二十回を数える記念のイベントです。子どもたちが実行委員会を作った準備し、運営にあたりました。子どもたちと職員が、十台の和太鼓を使って三



曲を披露しました。ホーム別の出店など二十一の模擬店が並びました。特設ステージでは、子どもたちがバンドや踊りを披露し、多目的ホールには、AOU（全日本アマチュアミュージメント施設運営者協会連合会）の協力でゲームコーナーが設けられ、地域の子どもたちにも好評でした。

不適切な関わり

昨年五月、職員が子どもを、故意にこぼせてしまいました。児童相談センターに報告、学園長と関係者を処分しました。あらためて子どもとの接し方について研修をしました。再発防止に努めます。

イベント開催・参加

さまざまな方々と団体の協力により、イベント



元ドラゴンズ選手の野球教室（10月9日）



オアシスフットサル教室（12月7日）

苦情・意見

以前「あおば、わかば両館の子どもが屋内で一緒に交流、遊べるスペースを作してほしい」との要望がありました。昨年の大規模修繕工事にあたり、小規模化に伴ってできたスペースを交流ス

を開催していただいたり参加させていただいたりしました。ありがとうございます。



バンビ・ニクス・スミスコンサート（12月19日）



アイススケート教室（12月23日）

苦情・意見

以前「あおば、わかば両館の子どもが屋内で一緒に交流、遊べるスペースを作してほしい」との要望がありました。昨年の大規模修繕工事にあたり、小規模化に伴ってできたスペースを交流ス

多くの方から、寄付、招待をいただきました。平成二十八年四月から十二月までに支援していただいた方のお名前を紹介させていただきます。匿名での善意もいただきました。ありがとうございます。（敬称略、順不同）

岩瀬清、洞泉寺、鈴木みづ子、J.A.三南南紀、慈眼寺、愛知県美容生活衛生同業組合、桜井良雄、田中尚己、大原充子、村松泰平、チユチュアンナ、東海アイスクリーム協会、加藤清吾、横地コズエ、親切会中部支部、中日シヨッパ、名西運輸、ナナミ、中日新聞東刈谷専売店、KEIZ大高店、シヨクブン、松本哲男、古川博三、中日エージェンシー、木下サカス、中日新聞折込広告協同組合、中日サービス、共生印刷、中日企業、ナゴヤドーム、丸新舎、中日アド企画、日進電気、中日オフセット印刷、中日新聞社販売局、中日新聞社販売店従業員、福島厚子、中日新聞保険サービス、西尾中日サービスセンター、中日高速オフセット印刷、中日総合サービス、ヴァリダックス、中日興業、鬼頭昌子、中日制作センター、愛知県連経営管理委員会、名古屋トヨベツト、今枝久美子、村元隆、中部善意銀行、ワイズ、ポカサップロフーズ&ビバレッジ、フロアの会、中日新聞印刷、中部日本ビルディング、産通名古屋支社、中日アドレック、竹腰信一、ギャップジャパンコーポレートコミュニケーションズ、元型物語寄贈プロジェクト事務局、Kトラ・ディング、虹の架け橋（養育者を支援する里親・家庭養護の会）、知多ピアールセンター、出版文化社、LA BOMBA、稲垣好子、兼松エレクトロニクス、大日本印刷、水野辰春、アパマンショップネットワーク、さんわコーポレーション、コムスタッフ、楽天CSR部、林麗子、日本鏡餅組合、近藤産興、全国シヤンメリー協同組合、都築、日本出版販売、春田建設、創美設計、名糖産業、吉兼重仁、愛知中央ライオンズ、三浦工業、中川区倫理法人会、ALLAN、千賀屋、S LOT POWERS WIN、ミカタ運輸、丹羽久子、下畑良和、梶川、トヨタL&F中部、東ソー・ニッケミ名古屋営業所、豊田自動織機、名古屋トヨベツト、愛知トヨタ、オークランドボウル春日井、NPO法人夢シフト、善都、日本特殊陶業、日産労連NPOセンターゆうらいふ21、小川佳純、橋嶋正剛、中日新聞岩崎専売店

平成28年度 中日青葉学園予算

あおば館 (単位: 円)				わかば館 (単位: 円)			
収入の部		支出の部		収入の部		支出の部	
1.措置費	217,613,000	1.人件費	154,407,000	1.措置費	178,330,000	1.人件費	144,447,000
2.補助金	9,900,000	2.事務費	52,750,000	2.補助金	5,821,000	2.事務費	13,800,000
3.寄附金	1,050,000	3.事業費	20,453,000	3.寄附金	500,000	3.事業費	29,309,000
4.雑収入	3,000,000	4.建物取得支出	60,000,000	4.雑収入	1,500,000	4.雑支出	100,000
5.利息配当	5,000	5.器具備品取得支出	1,000,000	5.利息配当	5,000	5.建物取得支出	40,000,000
6.繰入金	38,000,000	6.構築物取得支出	2,500,000	6.繰入金	15,000,000	6.器具備品取得支出	500,000
7.子育て支援事業	165,000	7.リース債務返済額	1,500,000	7.積立金取崩	28,000,000	7.構築物取得支出	1,000,000
8.積立金取崩	35,877,000	8.わかば館繰入金支出	13,000,000				
合 計	305,610,000	合 計	305,610,000	合 計	229,156,000	合 計	229,156,000

社会福祉法人中日新聞社会事業団 〒460-8511 名古屋市中区三の丸1-6-1 中日新聞社1階
電話 052 (221) 0580 ファクス 052 (221) 0839

中 日 青 葉 学 園 〒470-0131 愛知県日進市岩崎町竹ノ山149-164
児 童 養 護 施 設「あおば館」 電話 0561 (72) 0134 ファクス 0561 (74) 2315
児 童 心 理 治 療 施 設「わかば館」 電話 0561 (74) 7752 ファクス 0561 (72) 7557

編集後記

編集担当が代わり、初めての通信です。慣れないため、本来であれば、昨年秋季に発行する予定が大幅に遅れました。文字や写真を大きめにレイアウトを変更、今回は二頁増やしました。大規模修繕で施設の装いを新たにしましたが、職員の心持ちに変化をもたらしたのが、あおば、わかば両館の職員室の一体化です。両館の職員が顔を合わせて話す機会が増えたことで、連絡、相談がスムーズにできるようになりました。化学反応であらたな成果が生まれるかも。(S・H)